

報告

# 第39回 技術士全国大会(大阪)報告

植村 豊樹

## 1. はじめに

第39回技術士全国大会は、2012年9月21日(金)～24日(月)の4日間の日程で、全国から600人を超える技術士が大阪に集いました。北海道からは、次回の大会開催が札幌であるため、視察とPRを兼ねて能登副本部長をはじめ、29名の技術士が参加しました。

## 2. 大会の概要

### (1)大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは、「科学技術で社会を繋ぐ～繋がりにから生まれる新しい未来～」でした。

大会宣言は、杉本哲雄実行委員長により宣言されました。内容は次のとおりです。

「私たち技術士は、本日、歴史と産業と水の都、大阪の地に集いました。様々な分野の技術を有する技術士は、先人の知恵を現代に受け繋ぎ、総力を挙げて新しい時代の技術を築きあげていくとともに、産業と科学技術を繋ぎ、世代と世代の繋がりをより強固に進めてまいります。また、安全・安心な社会の建設に向けて、積極的に貢献していくことを決意します。

1. 伝統と文化をはぐくみ、人と自然が共生できる、災害に強い社会を建設するため、新しい技術の開発に取り組みます。
2. 地域市民と地域産官学との連携を深め、日本および各地域の産業活性化のための科学技術の創造に努めます。
3. 科学技術創造立国の推進に貢献し、次世代に引き繋ぐ科学技術を先導します。
4. 全ての技術士は、技術向上のための継続研鑽を積み重ね、また、高潔な技術者倫理を保ちます。

### (2)会場

大会会場は、大阪市天王寺区上本町にある大阪国



写真-1 大阪国際交流センター

際交流センターで開催されました。

### (3)スケジュール

#### 【9月21日(金)】

- ・第3回技術者倫理研究・全国情報交換会
- ・第9回技術者倫理研究事例発表会
- ・第8回全国防災連絡会議
- ・専門部会

#### 【9月22日(土)】

- ・芸術展、きんき表紙絵展、ポスターセッション
- ・分科会報告
- ・大会式典
- ・記念講演
- ・レセプション(交流パーティー)

#### 【9月23日(日)】

- ・中小企業交流研究会 in 大阪
- ・青年技術士の集い
- ・テクニカルツアー (日帰り・1泊2日)

#### 【9月24日(月)】

- ・テクニカルツアー (1泊2日)

## 3. 全国大会

### (1)分科会報告

大会テーマの「科学技術で社会を繋ぐ」の繋ぐをキーワードとして、以下の4分科会で論文発表が

行われました。

第1分科会：産業と科学技術を繋ぐ

第2分科会：地域を繋ぐ

第3分科会：世代を繋ぐ

第4分科会：阪神淡路大震災から東日本大震災へ  
復興への組織の繋がりネットワーク

第4分科会では、建設部門の技術士である泉南市長の向井通彦氏から「復興から繋ぐネットワーク」という表題で発表がありました。2011年に発生した東日本大震災に対応した行政支援についての内容と課題そして泉南市の防災計画の見直しについて、市政トップにいる技術士からの貴重な講演でした。



写真-2 分科会報告

## (2) 大会式典

大会式典は、近畿本部の技術士による「オーソレミーヨ」の独唱によって開会されました。



写真-3 大会式典オープニング

## (3) 記念講演

記念講演は、民族学の第一人者である須藤健一氏(国立民族学博物館、館長)からの講演で、題目は、「島世界をつなぐ知と技～今に生きる航海術」でした。

講演では、私たちの共通の祖先、ホモ・サピエン

ス(新人)がアフリカに誕生したのが20万年前。その10万年後に、新人はアフリカを出て地球のあちこちに進出し定着した。その中でも「海の人類大移動」は困難で長い時間を要したこと。

オセアニアの島々へ船出したのは今から3300年前で私たちと同系のアジア系の人々が島々を征服した。

オセアニアの人びとは、海を舞台に資源を利用し、人と人、島と島を結び、情報・知識・ものを交換して島世界で生きるための知識と技術を生み出してきたこと。その技術の中でも、星と風と波を軸とした伝統的な航海術について講演が進みました。

最後に、伝統的知識の伝承について実践しているオセアニアの若者たちの活動を紹介し、閉会しました。

## (4) レセプション(交流パーティー)

交流パーティーは、同じ会場の「さくらの間」で行われました。内村会長を皮切りに来賓の方々の挨拶が行われ、鏡開きの後、乾杯の発声とともにパーティーの開宴となりました。

アトラクションは、来賓の八尾市長の田中誠太氏の紹介から始まった伝統文化である「河内音頭」でし



写真-4 鏡開き



写真-5 河内音頭

た。ステージに太鼓と三味線と唄い手があがり、踊り手(熟年のゆかた美人)は、会場内を練り踊りました。途中に多くの参加者を引き込みながら長い行列となり、約30分間近く踊りが続きました。

次回の全国大会の開催地の紹介ということで、能登副本部長を筆頭に20数名がステージにあがりました。札幌での大会テーマや北海道の魅力のPRを行い、一同声を合わせて「来年は、札幌で会いましょう」と呼びかけて来ました。

**(5)テクニカルツアー**

1泊2日のテクニカルツアー(テーマ:世界遺産「高野山」の宿坊体験とメガソーラー/天然ガス発電所視察)として、稲むらの火の館、高野山、関西電力堺太陽光発電所、大阪ガス泉北天然ガス発電所の視察が行われました。出発の朝は雨が降っており、先が思いやられましたが、大阪から和歌山に入る頃には雨も止み、その後も雨に当たることなく無事終了いたしました。

稲むらの火の館は、和歌山県有田郡広川町に位置し、昨年開催しました第31回地域産学官と技術士との合同セミナーにおいて、柴田技術士がご紹介されました濱口梧陵の偉業と精神、教訓を学び受け継いでゆくため、数奇屋造りの木造家屋「濱口梧陵記念館」と「津波防災教育センター」が併設して平成19年4月に建てられました。東日本大震災以降、来館者数は倍増しているそうです(H22年度:約2万人→H22年度:約4万5千人)。3D津波映像シアターにてビデオ鑑賞の後、職員の方のガイダンスを受け、館内ならびに史蹟広村堤防を見学しました。

昼食後、宿泊先である高野山に着き、専門の案内



写真-6 ガイダンス「津波災害から身を守るために」



写真-7 史蹟広村堤防

人よる説明を受けながら20万基を超える墓碑(日産自動車やシャープ等多数の企業墓碑や織田信長・豊臣家・徳川家の供養塔など)の道を通り、奥之院を参拝しました。



写真-8 高野山 奥之院

その後、宿坊にて宿泊しましたが、近年は平成16年の世界遺産登録と高野山開創1200年を迎えるため観光地化しており、きれいな和室で洋式水洗トイレ・洗面所が設置してありました。



写真-9 宿坊(遍照光院)

2日目は先ず朝のお勤め(6:30~40分程度)か

ら始まり、朝食後身支度を整え、金剛峯寺を見学しました。金剛峯寺でのお話しの中で、覚えておいて欲しいとの一言がありましたのでご紹介します。『今日花が咲くのは過去のおかげと知る』



写真-10 金剛峯寺

高野山を後にし、和歌山から大阪の関西電力堺太陽光発電所へ向かい職員の方より説明を受けました。堺太陽光発電所は、昨年9月から運転を開始しパネル枚数約74,000枚にて最大出力10,000kw（伊達メガソーラーは1,000kw）を発電する施設です。面積は40,000m<sup>2</sup>と甲子園球場の約5個分であり、ひとけの無い産業廃棄物埋立処分場に位置しています。パネル傾斜角は費用対効果から15度（通常は30度とのこと）に設定し、メンテナンスは行ってないとのことでした（除草は行うが、産業廃棄物埋立処分場のため除草剤を撒けず人力で除草、パネルはシャープ製）。



写真-11 堺太陽光発電所

視察の最後は大阪ガス泉北天然ガス発電所です。大阪ガスの松本技術士らから説明を受けた後、ガス科学館の他、今回特別に施設内を見学（写真はNG）することができました。泉北天然ガス発電所は

LNGをガス化する泉北製造所の一角にあり、110万9,000kwの発電規模で2009年4月から運転開始されています。

発電方式は、ガスタービンコンバインドサイクル発電方式となっており、天然ガスの燃焼によるガスタービンと、排ガスの熱を利用した蒸気による蒸気タービンで発電する方式です。

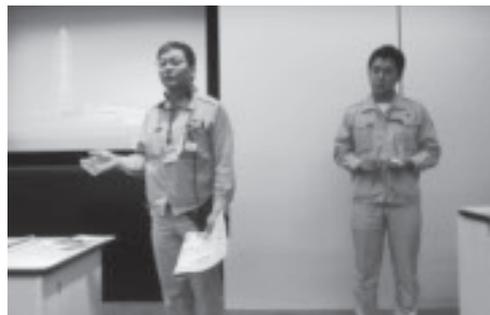


写真-12 大阪ガスの松本技術士(左)による説明

見学の後、会議室に戻り質疑応答となりましたが、時間の都合から幾つかの質問しか出来ず、名残惜しい中、発電所を立ちました。

#### 4. おわりに

筆者は、9年前の第30回全国大会（大阪）にも参加しました。前回の交流パーティーでは、参加費が高額な割に、料理・お酒が量・質ともに不評でした。

しかし、今回は、さすが食の台所「大阪」という感じで大変満足させて頂きました。

テクニカルツアーの報告は、北海道本部事務局の長井事務局次長に執筆を頂きました。

次回の第40回技術士全国大会（平成25年10月3日～6日）は、札幌での開催です。大会の成功に向けて、北海道本部の力を結集して頑張りたいと思います。

会員・会友の皆様、どうぞご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

---

#### 植村 豊樹（うえむら とよき）

技術士（建設／総合技術監理部門）

日本技術士会北海道本部  
事務局次長  
株式会社構研エンジニアリング

